

「文法項目」から見た「アニメの日本語」

A Study of the Grammatical Features in Anime Japanese.

山本 裕子

YAMAMOTO Hiroko

愛知淑徳大学

Aichi Shukutoku University

hiroko@asu.aasa.ac.jp

Abstract: This study analyzed a corpus of four anime scripts regarding 1) the coverage of grammatical items at each level of the former criteria for proficiency test and 2) what and how grammatical items are used at each level. In all scripts, the coverage of items at old level 1 was less than 10%, while that at old levels 3 and 4 was over 80%. Taking the usage of “V-tai” as an example, only about 30% of the usage fell within the scope of old level 4, and most such instances co-occurred with items at old level 3. Furthermore, the results suggest that the use of grammatical items is influenced by the content and characters of the anime.

キーワード：アニメスクリプト、文法レベル、カバー率、使用頻度、共起表現

1. はじめに

アニメーション（以下アニメ）で日本語を学んでいる、覚えている学習者は非常に多い。そういった学習者の日本語については「教科書外の様々な語彙・表現を知っている」という声もあれば、「きちんと話せない、書けない」という声もあるようだ。アニメの語彙に関してはジャンルに依存した語彙が多く、品詞の偏りにも影響があることが指摘されている（熊野 2011）が、文法についてはどうであろうか。

本発表では、アニメの日本語の文法レベルについて、日本語教育に馴染みの深い「文型」を手がかりに文法項目がどのように用いられているかという観点から検討する。日本語教師の立場からは、文法項目としてどんな項目が豊富で、どんな項目が不足しているかを知ることは有効である。また、アニメを楽しむ立場にとっても、アニメを楽しむには何を知っている必要があるかを把握することができると思う。

2. 先行研究

ここでは、アニメのスクリプトを用いて文法や語彙のレベルの分析を行なった研究について述べる。田中・本間（2009）では「耳をすませば」をとりあげ、基準が公開されている『旧日本語能力試験 出題基準（以下、旧基準）』（2002）をもとに語彙・文法のカバー率を検討し、語彙の約4割、文法の約8割弱をカバーしていると報告している。また、臼井・清水（2019他）ではアニメのレベルを測定する基準を設けることを目的に、短編のアニメについて語彙・文法のレベルの測定を行っている。文法については旧基準の文型に加え、リーダビリティの観

点からも分析されているが、初級文型が大半を占め、リーダビリティにおいても難易度が低いことを述べている。

これらの研究では、いずれも語彙的にも文法的にも「初級」と親和性が高く、難しいものではないと結論付けられている。ただし、田中・本間（2013）では旧基準をどれほどカバーしたかを見ており、頻度やどんな表現と共起しているかについての言及はない。臼井・清水（2019）は頻度にも言及があるが、研究目的の性質から、短編アニメ1作品のみが対象であり、そこで用いられている文型は非常に限られている。

以上を踏まえ本研究では、複数のアニメ作品を対象とし、文法項目がどのように用いられているか、組み合わせと頻度に注目してアニメのスクリプトを詳細に検討することとする。

3. 方法

国内外で人気があり、ジャンルの異なるアニメ4作品(表1参照)を対象とし、スクリプトをコーパス化し^{注1}、1) 旧基準における各級の文法項目カバー率、2) 文法項目の使用頻度、3) 使用のされ方について分析を行なった。

表1 分析対象アニメ（短単位数合計 150,631）

1	鬼滅の刃（以下「鬼滅」）	26 話分
2	名探偵コナン（以下「コナン」）	15 話分
3	フルーツバスケット（2019年版）	13 話分
4	ヴァイオレット・エヴァーガーデン	14 話分

4. 結果

4.1 文法レベルと文法項目カバー率

各級ごとの文法項目のカバー率は表2に示したように、どのアニメもカバー率に大きな違いはない。

表2 旧基準文法項目カバー率

	鬼滅	コナン	フルツバスクット	ヴァイレット
旧4級 (135)	89.6%	87.4%	88.9%	91.1%
旧3級 (116)	86.7%	87.1%	85.3%	82.8%
旧2級 (176)	38.6%	34.7%	39.8%	35.8%
旧1級 (105)	8.6%	10.5%	9.5%	7.6%

日常会話ではほとんど現れなさそうな旧1級の文法項目も用いられないわけではないが、カバー率は10%未満であり、一方で旧3、4級のカバー率は80%以上と非常に高い。

4.2 頻度

旧1級の項目は用いられていても、頻度が低い。用いられる項目はアニメ間でほぼ共通しており、3作品以上で用いられているのは、「～すら(計16回)」「～とは(計13回)」「(ただ)～のみ/のみならず(計11回)」「～っぱなし(計8回)」の4項目に限られる。また、旧2級の項目において3作品以上で用いられているものは、176のうち46項目である。そのうち頻度が高いものを表3に示す。

表3 旧2級で頻度の高い文法項目

～など/なんて/なんか	248回
～くらい/～ぐらい/～くらいだ/～ぐらいだ	51回
～しかない	50回
～とおりに/～とおりに/～どおりに/～どおりに	44回
～ほどだ/～ほど/～ほどの	43回
～もの(終助詞)	41回
～こそ	38回

一方で旧3、4級の項目の多くは頻度が高い。旧3、4級は、いわゆる「文型」とされる、文を形作る基本の要素が中心であるため、頻度が高いのも当然であるが、その中で以下の項目は顕著に頻度が低い。

表4 頻度の低い旧3、4級の項目

旧4級	Aくなかったです、Nではありませんでした	0回
	Nを・Vてくださいますか	
	Nをください	
旧3級	どのくらい/どのぐらい	5回
	～たところだ、～なくても構わない	0回
	～ようにいう、～てもかまわない	2回
	～ほど～ない	3回
	Vさせてください、Vにくい	4回

4.3 使われ方

次に文法項目がどのように用いられているかを、ここでは4つのアニメで316回用いられている、文型「Vたい」を例に挙げて示す。表5に示したように、旧4級の範囲内での使用は30%程度で、多くは旧3級項目と共起して用いられる。よって、アニメを理解するには、少な

くとも旧3級レベルに習熟する必要があると考えられる。

さらに「Vたい」と共起していた文法項目を表6に示す。これらのうち、「～のだ」以外はそのアニメでも同じように用いられていたが、「～のだ」は登場人物の話し方の特徴と連動して、アニメによる頻度の差が見られた。

表5 「Vたい」が共起する文法項目のレベル

	鬼滅の刃	コナン	フルツバスクット	ヴァイレット
旧4級	27.3%	24.3%	31.1%	26.9%
旧3級	69.7%	70.3%	66.0%	64.8%
旧2級	3.0%	5.4%	2.8%	8.3%

表6 「Vたい」と共起することの多い文法項目^{注2}

～のだ、～んだ	76回
名詞修飾(～こと、～ものも含む)	34回
引用(～と思う、～と言うなど)	38回
授受補助動詞	17回
条件(なら、ば、たら)	16回
受け身(～られたいなど)	15回

5. おわりに

どのアニメにおいても、使用されている文法項目のレベルごとのカバー率に大きな違いはなく、頻度の点からも初級文法項目が中心に用いられている。ただし、その組み合わせは多様である。また、文法項目の出現頻度、共起の仕方にはアニメの内容や人物設定の影響があることが窺われる。こうした特徴を知ることが、授業で使う場合も含め、より適切な作品選定の助けになるだろう。今後さらに分析を進めたい。

注

注1 コーパス化および分析は山本他(2020)を参照。

注2 1つの発話の中で複数の項目が組み合わされている場合、それぞれ1回とカウントした。

引用文献

- 白井直也・清水美帆(2019)「映像素材の活用のための新たな分析枠組みの提示ーアニメ『陽なたのアオシグレ』の映像・音声・台詞分析ー」『日本研究教育年報』23,pp.74-86.東京外国語大学日本専攻。
- 熊野七絵(2011)「アニメ・マンガの日本語～ジャンル用語の特徴をめぐって～」『広島大学国際センター紀要』1,pp.35-49.広島大学国際センター。
- 国際交流基金・日本国際教育支援協会(2002)『日本語能力試験出題基準(改訂版)』凡人社。
- 田中里実・本間淳子(2009)「初級語彙・文型による『耳をすませば』スクリプトの分析:日本語学習資源としてのアニメーション映画の可能性」『北海道大学留学生センター紀要』13,pp.98-117.北海道大学留学生センター。
- 山本裕子・本間妙・川村よし子(2020)「コーパス分析システムCo-Chuにおけるタグ検索機能とその活用ー誤用や話し言葉にどのように対応するか」『中部大学人文学部論集』43,pp.1-24.中部大学人文学部。